

同窓会は鳥羽小を応援しています



鳥羽っ子の幸せと夢の実現のために



# 同窓会報

令和4年3月  
第31号  
鳥羽小学校同窓会



## 新入会員紹介

〜令和三年度卒業生〜

学校のウェブサイトで過去の会報(第17号以降)や学校の近況をご覧になれます!  
<http://edu.town.wakasa.fukui.jp/toba-s/> または「若狭鳥羽小」で検索



ご挨拶

同窓会長 竹内 一善

(昭和40年度卒)

会員の皆様、いかがお過ごしでしょうか。皆様にはいつも本会に對しまして、温かいご支援、ご協力をいただき心より厚くお礼申し上げます。

今年も、幅広い年代、地域内外の会員の皆様からご寄稿いただき、母校と故郷への思いが熱く伝わってきました。本当にありがとうございます。

一昨年からの、コロナ禍がおさまらず各行事、生活に影響が出て大変寂しい思いをいたしております。学校の行事においても同じであったと思いますが、そんな中、今年も鳥羽リンピック（校内体育大会）が午前中だけでしたが「日進月歩」をテーマに開催されました。六年生を中心に、一生懸命に競技躍動する姿に胸が躍りました。機会があれば会員の皆様も是非応援見学に来てください。

本年の本会の活動としては、本誌の発行、プールの塗装補修に皆様方からの貴重な会費を使用させていただきました。児童も大変喜んできれいなプールで、水泳の練習に励んでいました。誠にありがとうございました。

学校、故郷を取り巻く環境は、



凄まじいスピードでICT化が行われ、全生徒がタブレット端末を使用した授業もおこなわれているのだと、「家庭・地域・学校協議会」の会議にて、鳥羽小学校スクールプラン（詳細はHPで）等の説明を先生方より受けました。

子供たちの頑張り、先生方の真摯なご指導ぶりに頭が下がります。時代が変わったのだなと痛感いたしました。

学校の統廃合の話も遠くの方で聞こえてきますが、今の素晴らしい母校が長く続きますように、また同窓会も共に発展していくことを切望いたします。

末筆になりましたが、会員の皆さまの益々のご健勝とご活躍をご祈念申し上げます。



ご挨拶

校長 松宮 弘明

(昭和49年度卒)

鳥羽小学校同窓会会員の皆様におかれましては、日々ご健勝にてお過ごしのこととお慶び申し上げます。

コロナ禍となり、はや三年目を迎えることとなりましたが、何度かの波を乗り越えて落ち着きを見せつつも、新たな株も一気に広がりを見せるなどまだまだ油断できない状況です。そのような中、昨年の会報誌でもお伝えしました通り、感染症対策を講じながら子供達のよりよい成長を願った教育活動を展開しているところです。このような様々な活動に取り組みますのも、地域の皆様や保護者、鳥羽小学校同窓会員の皆様のご理解とご協力あつての賜物であり感謝の気持ちで一杯です。何かと困難な状況ではありますが、今後とも鳥羽っ子の健やかな成長を支えていただきますようよろしくお願い申し上げます。

さて、学校では、令和三年四月、文科省によるGIGAスクール事業の推進により、一人一台のタブレットが配備されました。コロナ感染症による対策としてオンライン授業への対応も想定しています。鳥羽小学校でも、学校の研究のテ-

マと関連付け、三年計画でその活用について研究することとしました。概要は、令和三年度は「職員・児童がタブレットを使いこなす（慣れる）」令和四年度は「授業づくりの実践（効果的に活用できる授業）」令和五年度は「授業づくりの実践（深い学びを目指す）」というものです。将来的には、デジタル教科書への移行なども見据え、タブレットを文房具の一つとして活用し、主体的、対話的で深い学びの道具として活用できるようにしていきたいと考え取り組み始めました。そのような中、職員室でもタブレット活用にあつた話題が出ていました。一年生に初めてタブレットを操作させる際、『保管庫からどのように出し、最後にはどのよう片づけるのか』の指導をするだけで一時間の授業が必要であったことや、パスワードを入力してログインする際のキーボード入力に難しいことなど、ある程度想定はしていましたが、それ以上に時間がかかってしまう様子でした。しかし、これが二学期末の図工の時間では、使いたいときに自分から取り出し、パスワードもスラスラと入力して調べたいことが分かれば



また片づけるといふスキルを身に  
着けていました。他にも、クラブ  
活動で「スクラッチ(インターネッ  
ト上のプログラミングソフト)」を  
使ってレーシングカーを走らせる  
活動を見てみると、先生の説明か  
ら自分なりに読み解き、レーシン  
グカーの速さを変えたり動きを工  
夫したりする姿が見られました。  
このように、『教師が教えよう』と  
するより『子供達が考えて使う』  
ことが、タブレットの道具化には



雑

お陰様で小学校を卒業した同級  
生五十三名が、今年敬老の年を迎  
えました。各々、素晴らしい人生  
を歩んでこられました。年ごと  
に逝去される方がおられ、その訃  
報を耳にするたびに面影を偲びな  
がら友人と共に、寂しさを感じて  
いるこの頃です。

私は、「鳥羽を考える会」の關係  
で、「家庭・地域・学校協議会」に  
数年参加をさせて頂きました。鳥  
羽地域の特性や実情を生かしなが  
ら地域に根ざした開かれた学校づ  
くりということで、鳥羽谷で育む  
自主的な心豊かな子供たちの教育  
を担当されている先生方と多くの

近道だと考えるようにもなったG  
IGAスクール元年でした。  
学校は、これからの社会がどん  
なに变化して予測困難な時代に  
なっても、子供達が自ら課題を見  
つけ、自ら学び自ら考え判断して  
行動し、それぞれに思い描く幸せ  
を実現していけるよう育んでいき  
たいと考えています。今後とも力  
強いご指導とご支援をよろしくお  
願います！

感 新 進  
(昭和33年度卒)

話題を懇談させて頂きました。地  
域の教育方針が深く理解できまし  
たこと心から感謝致しております。  
さて、県内も六十五歳以上を総  
人口に占める割合が三割以上とな  
り総人口は、五年前の国勢調査か  
ら二・五%減となり七十六万六千  
八百六十三人となりました。一段  
と少子高齢化が進んだようです。

町では、昨年実施された国勢調  
査の総人口が一万四千九十九人で千  
二百三十八人の減となり県内では、  
最も大きい減少と聞いております。  
集落も同じく子供の少ない高齢  
者が多い集落が一段と目立ちます。  
我が集落も、保育所の幼児がおり

ません、小学校は一名の児童のみ  
で、非常に寂しい集落となつて  
います。

この状態が、長く続くと集落自  
治が存続できなくなり崩壊につな  
がります。例えば、小  
集落が合併できるよう  
な抜本的な打開策が必  
要ではないでしょうか。

また、新型コロナウイルスウ  
イルスが中国の武漢市  
で初めて確認されてか  
ら、今年の十二月八日  
で二ヶ年が経過し長い  
戦いが続いております。

全国の十二月での感染  
者は百七二万六千七百  
五十一人で県では三千  
百十五人でワースト感  
染数の県別合計の順位  
では、四十四位であり  
大変低い数値を推移し  
ています。県内の新規感  
染者数ゼロの日が連続で  
続いていますので大変心  
強く安心をしています。

しかし政府では、新型  
コロナのオミクロン株を  
想定され医療供給体制の  
確保や外国人の入国停止  
など水際対策を行い最大  
の危機管理を整えながら  
第六派の感染拡大に備え  
るため、警戒態勢が強め  
られています。

日ごとに、感染国の増  
加や関係地域への広がり

があり、今後の国内への影響が予  
測できないのが本音であろうと思  
います。計画されている三回目の  
ワクチン接種が国民に速やかに  
完了し社会活動や経済活動が正常



1年担任：岡村先生 2年担任：小泉先生 3年担任：小原先生 4～6年担任：高橋先生

化されまして、地域活動が展開されることを、心待ちにしております。

さて、今話題となっている、こども家庭庁の創設につきましては、企画総合部門や成育部門、支援部門が、令和五年度早期に創設できるように取り組まれておりますが、いじめや遺児対応そして虐待や障害児対策等の多くの子供関連政策



### 鳥羽谷を思う

兼松 啓 一

(昭和48年度卒)

同窓会誌の原稿を依頼されたときは驚きがありました。二〇二二年三月に還暦を迎えるタイミングの節目の記念となることを喜んでいきます。

さて、何を書こうかと思案していた時期の、二〇二一年十二月三日(金)朝の九時二十八分頃、紀伊水道を震源とした震度五弱の地震が発生、同日六時三十七分にも山梨県東部、富士五湖でも震度五弱の地震が発生していました。二〇二一年は大きな地震が頻発し、富士山の噴火や南海トラフ巨大地震の関連を心配することが多くなってきました。そして「新型コロナ」の流行となかなか住みにく

を検討される中で、国の宝と言えらる子供たちの支援策の充実を図り、保護者に頼ることのない支援制度を国の義務として取り組んでほしいと思います。

今後とも鳥羽小学校が地域と連携しながら、鳥羽の子が心豊かに育まれ益々発展されることをお祈り申し上げます。

(若狭町南 在住)

い世の中になりつつあります。

私が鳥羽を離れたのが一九八〇年(昭和五十五年)ですから約半世紀が過ぎようとしています。その間様々な事件や災害が発生しましたが、特に私が直接体験したのが、一九九五年(平成七年)一月に発生した「阪神淡路大震災」です。活断層のすぐ近くに住んでいました。あの阪神高速が倒れた国道四三号線の近くです。

日本全国どこに住んでいても地震の心配はありますが、ふと故郷である鳥羽谷はと考えると、幸いにも地震の影響は記憶になく、若狭町の災害の歴史を遡っても、江戸時代の一六六二年(寛文二年)



の地震が最も規模が大きくなったおり、現代においては特筆すべき地震災害はないようです。その他の災害はというと水害、雪害の影響が大きく、いわゆる五六豪雪と五九豪雪時の被害記録が上地域に残されており(上中町三十年史より)、五九豪雪時は被害が大きかったようです。また、新型コロナの感染者も少ないということも住みやすい町だと改めて感じているところです。とは言え、私の小さい頃は台風の被害が大きかった記憶があります(おそらく治水対策が不十分だったのかもしれないが)、私が小さかったので、大きく感じただけかもしれませぬ。八十歳を超える母親とそんな話をしていたところ、鳥羽谷は本当に住みやすいところとしみじみ話をしていました。確かに小学校時代の風景と何か大きく変わったかと記憶を辿ると、風景としては舞鶴若狭道が開通したこと以外、大きく変化しているところはないよう

に思います。もちろん「かやぶき屋根」や、「トタン屋根」の家が多かったですけど。でも変化はその程度で、小さい頃のまま残っている風景を見ると、帰ってくる度にホッとします。

私は今、大阪府と京都府の境界にある町に住んでいます。近くに名神大山崎ICがあります。近くに高速に乗ってしまえば若狭上中ICまで約二時間、大山崎ICまでの道を選べば、自宅から実家(無悪)まで信号一カ所だけを着いてしまうという便利さを手に入れていきます。周りには色々な変化があり、便利さを手に入れつつ、鳥羽谷は昔ながらの良さをそのまま残してくれている。本当に幸せなことだと思います。この鳥羽谷のすばらしさがこの環境がいつまでも続くことを切に願います。

(大阪府島本町在住)







# 幾つになっても 与えられ続けているもの

森下 ほづみ

(昭和53年度卒 旧姓 山本)

二〇二〇年、コロナ禍による緊急事態宣言が発令された年のお正月、庄司旅館で鳥羽小時代の同窓会が開催され、高橋利男先生、松宮健一郎先生にもご出席賜り、久しぶりの幼友達の良さに心が温かく感じた。その時はまさか二十六年ぶりに実家生活が始まるとは全く予想もしていなかった。

主人、家族の理解と協力のもと、平日五日間の実家「小原生活」を始めて約一年が経った。昨秋、三週間余りの看病生活の末、母があっけなく他界してしまい、脳腫瘍のため放射線治療の副作用が原因で認知症となった父の世話をすることになったからだ。

平日週三回、出勤前にパレアの社協さんに父を送り、夕方は主人が実家で迎えてくれる。あとの二日間は私が仕事から帰るまで姉が父と過ごしてくれ、週末は福井市から兄が帰宅してくれるので、その土日だけ自宅に戻るという生活だ。各々が出来る範囲を受け持ち、寝不足になったり、平日の昼間や夜間、あるいは土日祝祭日の拘束をしんどいなと感じたりもするが、それでもお互いの不都合を

調整し合いながら、たまに成り立つ父との普通の会話、父からの「おきんな、おきんな」という感謝の一言、「父ちゃんががんばって生きるわ」という前向きな姿勢、それらがしんどさを跳ね返し、何ともいえない温かで幸せな感情を湧き上がらせてくれ、不思議なもので逆に「じいちゃんおっつけてくれてありがと、世話をさせてくれてありがと」と感謝の思いが溢れてくる。居てくれるだけで充分である。

話は大きく変わるが、母や父が少なくとも六十年間耕してきた畑



に見様見真似で主人と兄が種を撒き、苗を植えてくれる。すると肥えた土が自然と大きな大根、かぶら、白菜などを育ててくれ口を満たしてくれる。

若い頃は一回きりの人生、絶対に上中を出るぞ!!と思っていたが、今は実家の景色や近所の人との何気ない会話、また空気の心地良さにどっぷり浸かっている日々。仕事を終えてからの実家への帰り道、押し迫る山々、この鳥羽谷でい로운な面から愛情をいっぱいもらって心も体も育ててもらったなあ、今も多くのものを与えられ続けているなと有難く思える。



# 校舎裏での思い出

澤 信也

(昭和60年度卒)

「アリの食べると酸っぱい味がする」このことを学んだのは小学生の頃でした。確か小学二年生か三年生だったころ、「シロアリが美味い」という噂が男子の中で囁かれるようになりまして。そこで、男子連中は休み時間のたびに校舎裏にあった朽ちた材木をはがして、シロアリの食べるようになりまして。決して美味くはなく、湿った木の味がしたように記憶していま

す。しかしギャングエイジである我々はお互いに弱みを見せあいたくなく、強がって「美味しい、美味しい」とシロア리를何匹も食べていました。そのうちシロアリだけでは飽き足らず、普通のア리를食べ始めるものが出てきました。「アリ酸っぱい」その言葉を聞き、みんなアりに手を伸ばし、「ア리를食べると酸っぱい味がする」このことを学んだのでした。

先のことはどうなるか全くわからないし、何も残してあげられないかもしれないが、我が子をはじめ次の世代の人たちが一定の年齢になる頃に、今の私のように「故郷や親が与え続けてくれていた何かしら」を感じてくれればいいなと思う。

とにかく今は自分が置かれている状況や立ち位置で、目の前にある「父の介護生活」という大きく大切な仕事を主人や兄姉と協力して楽しませてもらうと思う。

(若狭町新道 在住)

しかし、そこで疑問が生まれました。なぜシロアリは酸っぱくなくて、アリは酸っぱいのか。大きくなってから調べてみると、同じアリと名前がついていますが、シロアリはゴキブリの仲間で、アリはハチの仲間だそうです。また、アリを食べると酸っぱいのは、アリの危険が迫ると蟻酸(ぎさん)と呼ばれる毒を体から出すからだと思います。ちなみに蟻酸はメタノール(メチルアルコール)中毒の原因物質で猛毒です。ゴキブリの子孫のシロアリの食べ、猛毒の蟻酸をもつアリを食べ、よく病気になるなかつたものだとなつて思います。

当時の小学生だった私達は、常に何か面白いことを求めていたように思います。理科の実験「日なたと日陰での植物(ヒマワリ)の成長を比べよう」では、日陰の苗の成長を応援するためにみんなで立小便をして日陰のヒマワリの苗におしっこをかけました。おしっこの勢いに苗が折れて腐りました。当時担任の中塚先生はそのことについて叱らず、ヒトを含め動物の排泄物は発酵させて堆肥になることを教えていただきました。

校舎裏の倉庫に巣をしたミツバチに水や石をぶつけて何回も刺されたこともありました。このことで、ミツバチの針には返しのようになトゲがあり、ミツバチが刺すと針と共にミツバチの内臓も残って



しまうこと、刺したミツバチは死んでしまうことを学びました。また、校舎裏の小川でドボン釣りもしました。落ちていた針金で釣り針をつくり、ビニールテープを細く裂いて釣り糸にしました。おもりは石、エサは小川のカワナナです。道具がなければ自作することを選びました。また、五・六年担任の高橋先生には校舎裏のプール更衣室で弱ったトンビの雛の飼育を見せてもらいました。その時にトンビは生餌ではなく、死肉を食べることを教わりました。

私は中学校の理科教師をしています。鳥羽小学校の校舎裏での経験や学んだことが大いに影響していると感じています。

(若狭町上黒田 在住)



鳥羽小学校生活を振り返って

吉村

(昭和62年度卒)

「♪向う鏡の山高く  
鳥羽の谷川水清し」

小中高、大学と通いましたが、そらで校歌を歌えるのは鳥羽小学校しかありません。

勿論、六年間と一番長い学校生活を送ったという事もありますが、それ以上に楽しく良い意味で影響があつたからだと思います。

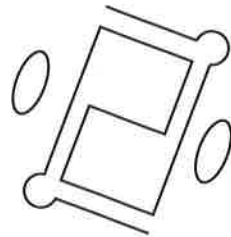
私の学年は男子十一人、女子十三人の計二十四人と前後の学年と比べると比較的に少ない人数だつ

たと記憶しています。その分、男女隔たり無く仲が良かったです。休み時間や昼休みには良く一緒に遊んでいました。「ドッチボール」「アイキユウ」「かつせん」

特に「かつせん」は男女対抗で良く遊んだものです。靴の踵で家庭にある独特な形状の線を引いていましたが、皆さん今でも書けますか？

最初の内は仲良く遊んでいるのですが、段々とヒートアップしてくると、押し出す力やケンケンで移動中の体当たりが激しくなり、女子をこかして泣かせた記憶が甦ります。その節は申し訳有りませんでした。思い出の一つとしてしまつておいて下さい。

そんな「かつせん」ですが、うちの子供に遊んだ事が有るか尋ねたところ「知らん」と、寂しい一言で返ってきました。あんなに白熱し流行っていたものなのに・・・先に書いた通り、しよつちゅうこけては『ひび』や『ひび』





にスリ傷を作っていましたから、今の時代には沿わないのかもしれない。そんな。

その逆に今でも遊ばれている『かくれんぼ』『けいどろ』などもあり、時代によって変わっていくものと、変わらずに残っているものと、色々あることが不思議です。



### 鳥羽小学校での私の思い出

森下 友理子

(平成4年度卒)

一度ご家族で子供の頃にどんな遊びをしたかお話をしてみても下さ。懐かしい思い出が甦り、盛り上がることと思いますので。

(若狭町三生野 在住)

私が鳥羽小学校を卒業してから二十八年もの月日が経ちます。その中で小学校在学中に心に残る出来事が二つありました。

一つ目は小学校三年生になった時ランチルームが完成したことです。それまでは教室での給食でしたが、クラスでの給食は楽しかったです。日々変わることのない給食の時間だった気がします。変化があったとするならば、席替えをした時が楽しかったのを思い出します。またお昼の放送で音楽が流れると歌いだす友人がいてとても楽しかったです。

三年生になると全学年で集まり給食を食べることになりました。ランチルームでの給食は、たて割りの中で一年生から六年生までの

配膳当番が割り当てられており、六年生の姿がすぐく大人に見えて頼もしいと思つたのをおぼえています。特に高学年のお兄さんお姉さんが低学年の子の食事量を減らしてくる姿を見て、ランチルームでの給食の時間は全校生徒での交流ができるよい機会となつていたように思います。食事を共にする中で「やってはいけないこと」「やらなくてはいけないこと」などたくさんさんのことを学ぶことができました。

今でもランチルームでの給食が継続されていることが素晴らしいことであると感じています。また大人になり働いている今も小学生から経験してきたたて割り活動が仕事に活かされていることに感謝

しています。

二つ目は集団下校と単独下校での思い出です。集団登下校を通して、高学年になるにつれて責任感を持つようになつたと思います。また単独下校が印象に残っています。好きな友達と学校から家に着くまで道草をして日が暮れるまで色々な話をしたり、ランドセルを土手に置いて道端に咲ききれいな花をつんだり、鳥羽川を眺めていると魚がいたり、亀を捕まえたりと自然の豊かさを体験し楽しい下校をしたことを鮮明におぼえています。ですが今は熊が出たり、不審者がいるなど報道をよく耳にするようになりまし。私の時代は帰りに



会う人みんなが知っている人であり、挨拶を交わすことが当たり前でした。今は地域の方が見守り隊としてボランティアで児童の下校を見守り、先生が送迎をして下さる現状があります。鳥羽谷に住む多くの生き物や植物に触れることのできる機会が私の時代は当たり前であったことを思い出し改めて幸せな環境で育つてきたと感じます。

今回このような機会を与えていただき、改めて自分の住んでいる鳥羽谷と通ってきた小学校の良さを再認識することができたこと、良いものを継承されている鳥羽小学校の素晴らしさを感じることができてうれしく思います。また自分の大好きな鳥羽小学校に我が子も通うことができたことを誇りに思います。

(若狭町大鳥羽 在住)





## 小学校での思い出

村上 遥菜

(平成17年度卒)

小学校で三年間担任をしていた吉田先生から連絡をいただき、同窓会報の執筆をさせていただくことになりました。鳥羽小学校で過ごした時間を振り返ると、様々な経験をさせていただいたことを思い出します。

私たちの学年は、男子十一人、女子二十二人の計三十三人の学級でした。当時、一番目か二番目に人数が多い学年だったと思います。そのためか、何をするにも良きライバルがいて、切磋琢磨しながら様々なことに取り組むことができました。いたなと思

三年生の時にはみんなまで野菜を育てました。夏休みにも当番が広い畑に水やりをしたり、みんなが害獣対策のネットを張ったりと、子どもながらに大変だなと感じていま



た。地区の体育大会で自分たちが収穫した野菜を地域の方が快く買ってくれ、嬉しかったことも残っています。また、みんなで養鶏場の見学をして鶏を抱えて歩いて帰り、学校で飼育したことも心に残っています。鶏が生んだ卵を孵卵器の中に入れ、みんなでいつ孵化するだろうと待っていたこともありました。実際に孵卵器の中で卵からかえったばかりのひよこがいる光景を見たときは感動しました。その後、孵化することができなかった卵を埋葬する際に、心臓や体が

途中までできあがっているのを見て、いつも当たり前のように食べている卵は「命」なのだなと実感しました。

小学校高学年の頃には、田植えや稲刈りの体験をさせていただきました。足を踏み入れると田んぼの底が冷たく、身動きがとりづらかったです。田植えの方法を地域の方から教わり、腰を低くして広い田んぼにたくさん稲を植えました。稲刈り体験も、地域の方にコツを教わって取り組みました。腰を低くして取り組む作業でした。当時は、田植えと稲刈りをしたことで、自分もたくさん参加した気になっていましたが、今思うと私たち子どもが田植えをし、直さなければいけない部分を直したり、稲刈りをするまでの田んぼの管理をしたりするのは、全て地域の方がしてくださっていたのだな、と思います。毎日食べているのお米がどのように作られているの



## 小学校の思い出

宇野 真飛瑠

(平成23年度卒)

かを体験を通して学ぶことができただけで、地域の方や学校の先生方にはとても感謝しています。小学生の私たちに様々な経験をさせていただき、本当にありがたいなと感じています。

現在、私は南越前町で小学校の教員をしています。私は鳥羽小学校での経験から、子どもたちに様々な経験をさせてあげられる教員になりたいと思います。小学校の教員を目指しました。今教員の立場に立って感じるのは、様々な学習の中で地域の方の力をお借りする際、地域の方から学ぶことは多く、子どもたちにとって幅広い学びができるということだと思います。私は、そういったことを、たくさん地域の方から経験させていただき、のびのび育つたことに感謝しています。これからも故郷鳥羽での思い出を大切にしていきたいと思

(越前市在住)

小学校の頃から作文は苦手で、うまく文章にまとめることができなくて、枚数ばかり重なってしま

うことが多かったことを今、思い出します。卒業してちょうど十年目なので、思い出など思い出しな





がら書いていきます。  
 まず、私は入学した時、体も小さく、活発な元気な子でもなかったのでクラスのみんなについていくことが大変でした。あと、保育園の頃から仲良く、そのまま小学校に入学だったので友達を作ることはそこまで苦戦しませんでした。みんな優しく楽しい小学校生活だったように思います。低学年の頃は、集団登校で先輩たちについていくことが毎日大変でした。遠山先生には、私はあまり話すような子ではなかったため、難しい子だったかもしれない。しかし、毎日笑って過ごしていた気がしません。中学年の頃、一番思い出されるのは当時担任の先生だった中村

先生考案の「一人称を僕、私に変えよう」です。私は、結局卒業までずっと一人称が直りませんでした。また、中学年のころまでは給食の時間も億劫でした。下手したら、掃除が始まるまで食べていた気がします。高学年になると、大宮先生の提案で毎日の授業でも夏の暑い日は冷房の効いたパソコン室でしたり、男女対抗バスケット対決では全然女子に勝てなかったりしたことが懐かしいです。また、私たちは今の校舎になる前の旧校舎と今の校舎の建築期間中であったため、仮設校舎で過ごしていたので、秘密基地感があり、少し私はあの感じが好きでした。  
 さて、今大学四年生になり、今年は見護師の国家試験を受ける年でもあります。コロナウイルスがまん延しているこのご時世に、需要が大きい見護師をすることはとても偉大なことだと思っています。敦賀市の看護大学に四年間通って、看護師は責任感が強い仕事であることを改めて、実習等を通して分かった気がします。これ乗り越えてこられたのも、勉強の基礎や根本的な勉強方法を教えてくださった、小学校の担任であった三人の先生のおかげだと思っています。毎日、自主勉強ノートを提出したことや宿題をこなしましたが、今の勉強にも繋がっているのだと思います。毎日、友達とどのくらい話しかかせ合ったり、明日は何



するか相談したり、半分自主勉強ではありませんでした。一日一ページ頑張っていたように思います。  
 今でも、同級生のメンバーと集まって近況報告や小学校の時の思い出を、お酒も少し入れながら、楽しく語り合うことが出来ています。私は、そんな優しく、何でも相談に乗ってくれる鳥羽小学校の同級生が大好きです。また、ここまで成長できたのも、地域の方

たちの助けがあつてこそだと思っています。これからは、支えていく立場として恩返し出来たらいいなと思っています。  
 (敦賀市在住)



# 学校の近況

## 【学年別児童数】

1年	2年	3年	4年	5年	6年	合計
24	10	16	17	17	18	102

## 【集落別児童数】

大鳥羽	上黒田	麻生野	海士坂	三生野	無患	三田	小原	南	山内	持田	長江	朝霧	校区外	合計
13	4	12	13	11	6	8	1	0	7	4	11	6	6	102

## 【職員構成】

校長	教頭	教諭	養護教諭	事務職員	講師	学習支援員	校務員	合計
1	1	9	1	1	1	4	1	19

## 【令和3年度 教育目標】

### 自ら学び 共にたくましく生きる子

- ・自ら、対話的に学習をすすめる子の育成
- ・自分も友だちも大切にする子の育成
- ・健康な体づくりを習慣化している子の育成
- ・信頼される学校づくり

## 【主な行事】

4月	入学式・始業式・身体計測・交通安全教室・教育懇談会・PTA 総会
5月	田植え・鳥羽リンピック（→コロナの影響で10月に延期）
6月	前期校内研究会・避難訓練・家庭地域学校協議会・プール開き
7月	教育懇談会・終業式・5年自然教室
8月	始業式
9月	稲刈り・陸上記録会（→陸上チャレンジ大会として11月に延期）
10月	鳥羽リンピック・修学旅行・秋季遠足
11月	マラソン大会・陸上チャレンジ大会・就学時健診・後期校内研究会
12月	県学力調査・教育懇談会・PTA 研修会・終業式
1月	始業式・学校給食週間（そり体験・スケート教室はコロナ禍のため中止）
2月	新1年生見学会・家庭地域学校協議会・6年生を送る会（学習発表会はコロナ禍のため中止）
3月	卒業証書授与式・終業式・修了式





### 令和3年度鳥羽小学校同窓会決算書

令和4年3月現在

#### 【収入の部】

(単位:円)

	3年度決算額	備 考
会 費	415,900	1,000円×417戸 (振込手数料1100円)
協 力 金	8,400	職員700円×12人
寄 付 金	3,500	同窓会役員より
前年度繰越金	1,918	
合 計	429,718	

#### 【支出の部】

(単位:円)

	3年度決算額	備 考
会 議 費	0	役員会, 理事会, 編集委員会
事 務 費	982	印刷経費, 通信費, 振込手数料
事 業 費	404,204	
会 報	99,900	同窓会報第31号
教育振興	304,304	石油ファンヒーター ファンヒーターキャスター 校内電話機整備
雑 費	5,000	地区区長会へ
次年度繰越金	19,532	
合 計	429,718	

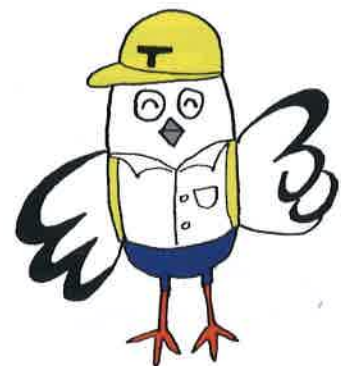
※最終決算は、令和4年度理事会(令和4年5月開催予定)でご報告いたします。

### 令和3年度鳥羽小学校同窓会役員名簿

役 員	集落等	氏 名
会 長	無 悪	竹 内 一 善
副会長	海土坂	高 橋 繁 応
”	麻生野	世 儀 純 子
顧 問	三 田	小 林 銀右工門
”	三 田	福 谷 洋
”	大鳥羽	松 宮 保 彦
”	三 田	岡 本 嘉 樹
”	上黒田	澤 本 啓 一

役 員	集落等	氏 名
顧 問	海土坂	竹 内 小太衛
”	小 原	岩 本 守 博
”	小学校校長	松 宮 弘 明
幹 事	麻生野	三 宅 清
”	持 田	竹 内 奈 央
監 事	三 田	香 川 和 博
”	南	北清水 直美
事務局	小学校教頭	岡 本 佳 久

役 員	集落等	氏 名	氏 名
理 事	大鳥羽	霜 中 健 至	守 本 美 和
”	上黒田	澤 和 弘	山 口 剛
”	麻生野	中 島 博 和	三 宅 翔 樹
”	海土坂	泉 坂 光 彦	内 藤 雄 樹
”	三生野	畑 中 泰 信	吉 村 学 宏
”	無 悪	岡 野 学	北 川 和 絵
”	三 田	谷 江 和 弥	山 本 和 絵
”	小 原	島 津 真喜雄	島 津 基 寿
”	南	澤 田 和 則	澤 田 茂
”	山 内	中 畑 正 伸	高 橋 步 美
”	長 江	清 水 健 二	武 田 七 穂
”	持 田	竹 内 奈 央	原 田 正 美
”	朝 霧	鳥 羽 角 栄	小 川 平 二



#### 編集後記

とうとうロシアがウクライナに砲撃を始めてしまいました。

昨年この欄で小松左京の『宇宙人の宿題』という短編小説の話を書かせていただきました。この話の中では主人公のよし子という少女がなんとか宇宙人を思いとどまらせ、地球人を滅ぼすことなく宇宙人は帰って行きました。しかしそのとき宇宙人はこれからの地球人の振る舞いについての『宿題』を与えて帰って行ったのです。

さて、昨今の人類の振る舞いはどうでしょう。『やっぱりこりゃだめだ』と宇宙人に見限られているかもしれない。

今年も多くの方から寄稿いただき立派な同窓会報ができました。皆様方の原稿の中に描かれている鳥羽谷の原風景が今後失われることのないことを願っています。

(繁応記)



# 鳥羽谷で育む、心豊かな鳥羽の子



シーカヤック(4年生)



親子レクリエーション(6年生)



田植え



プール清掃



マラソン大会



交通安全教室



児童会役員選挙



自然教室



授業参観も教室の外から



縦割り秋季遠足



そうきんリレー大会



心も体も元気委員会発表



鳥羽リンピック



地域ボランティアによる読み聞かせ



陸上チャレンジ大会